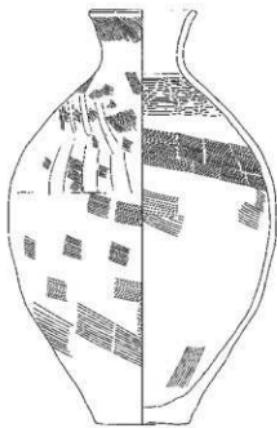


市内遺跡調査概報XVI

—— 平成17年度、上北島遺跡の調査他 ——



2006年3月

高岡市教育委員会

序

高岡市域における遺跡は、古くは丘陵や台地縁辺部において採集された旧石器時代の石器があり、その後近世の都市遺跡に至るまで、縄文時代、弥生時代をはじめ古代～中世の遺跡が所在しています。

これらの遺跡は、丘陵・台地部から平野部まで市内各所に分布し、高岡市固有の風土や郷土文化を形作る一部となっています。本市教育委員会におきましては、長年にわたりこの遺跡保護行政を実施してきました。

今回ここに報告するのは、個人住宅建築等の開発行為に伴い平成17年度に実施した9箇所の遺跡－越中国府関連遺跡、中川遺跡、瑞龍寺遺跡、守護町遺跡、石塚遺跡、出来田南遺跡、中保B遺跡、上北島遺跡、石塚江之戸遺跡の発掘調査の内容です。

その他の遺跡は、過去に発掘調査の実績があり、各遺跡の内容把握がさらに進展いたしました。

結びにあたり、今回の調査実施に御協力頂きました、関係各位、地元の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成18年3月

高岡市教育委員会
教育長 村井 和

例　　言

1. 本書は、富山県高岡市において平成17年度に実施した、埋蔵文化財発掘調査の概要報告である。
2. 当調査は、開発工事に伴い実施した試掘調査である。
3. 当調査は、平成17年度国庫補助金の交付を受けて、高岡市教育委員会文化課が実施した。
4. 調査地区は、9遺跡13箇所である。
5. 調査関係者は以下の通りである。
文化財課長；笠島千恵子
〔埋蔵文化財担当〕
本林弘吉（顧主幹）
山口辰一（副主幹）
荒井 隆（主任）
6. 本書における遺構番号は次の通りである。
SD-1溝、SK-1土坑、SX-その他の遺構
7. 本書における遺物番号は次の通りである。
1001～1007番：石塚遺跡、土器類
2001～2008番：出来田遺跡、上器類
2101番：出来田遺跡、土製品
3001～3004番：上北島遺跡、土器類
8. 本書においては、主要な試掘調査地区である3遺跡3箇所について詳細に報告し、他の6遺跡10箇所を簡潔にした。
9. 本書の執筆担当は荒井である。

※表紙・大扉カット=上北島遺跡石窯地区出土弥生土器実測図（縮尺1／4）

目 次

序・例言・目次

1. 石塚遺跡NTT ドコモショップ地区	1
2. 出来田南遺跡石川地区	9
3. 上北島遺跡石黒地区	17
4. その他の遺跡	25

挿 図 目 次

第1図 石塚遺跡位置図〔1〕 (1/15万)	1
第2図 石塚遺跡位置図〔2〕 (1/5万)	2
第3図 石塚遺跡NTT ドコモショップ地区位置図 (1/5,000)	3
第4図 石塚遺跡NTT ドコモショップ地区全体図 (1/400)	4
第5図 石塚遺跡NTT ドコモショップ地区遺構図 (1/200)	6
第6図 石塚遺跡NTT ドコモショップ地区遺物実測図 (1/3)	7
第7図 出来田南遺跡位置図〔1〕 (1/15万)	9
第8図 出来田南遺跡位置図〔2〕 (1/5万)	10
第9図 出来田南遺跡石川地区位置図 (1/5,000)	11
第10図 出来田南遺跡石川地区遺構図 (1/100)	14
第11図 出来田南遺跡石川地区溝SD03・04上層図 (1/80)	14
第12図 出来田南遺跡石川地区土器尖底図 (1/3)	15
第13図 出来田南遺跡石川地区土製品実測図 (1/2)	15
第14図 上北島遺跡位置図〔1〕 (1/15万)	17
第15図 上北島遺跡位置図〔2〕 (1/5万)	18
第16図 上北島遺跡石黒地区位置図 (1/5,000)	19
第17図 上北島遺跡石黒地区遺構図 (1/400)	22
第18図 上北島遺跡石黒地区遺物実測図 (1/3)	23
第19図 越中国府開達遺跡安谷地区位置図 (1/5,000)	26
第20図 中川遺跡光慶寺地区位置図 (1/5,000)	27
第21図 瑞龍寺遺跡小竹地区位置図 (1/5,000)	28
第22図 越中国府開達遺跡ア・ライズ伏木地区位置図 (1/5,000)	29

第23図 守護町遺跡玉川地区位置図 (1/5,000)	30
第24図 越中国府関連遺跡シマダ木材地区位置図 (1/5,000)	31
第25図 中保B追跡政所地区位置図 (1/5,000)	32
第26図 越中国府関連遺跡放地区位置図 (1/5,000)	33
第27図 越中国府関連遺跡串田地区位置図 (1/5,000)	34
第28図 石塚江之戸遺跡マルワード地区位置図 (1/5,000)	35

図 版 目 次

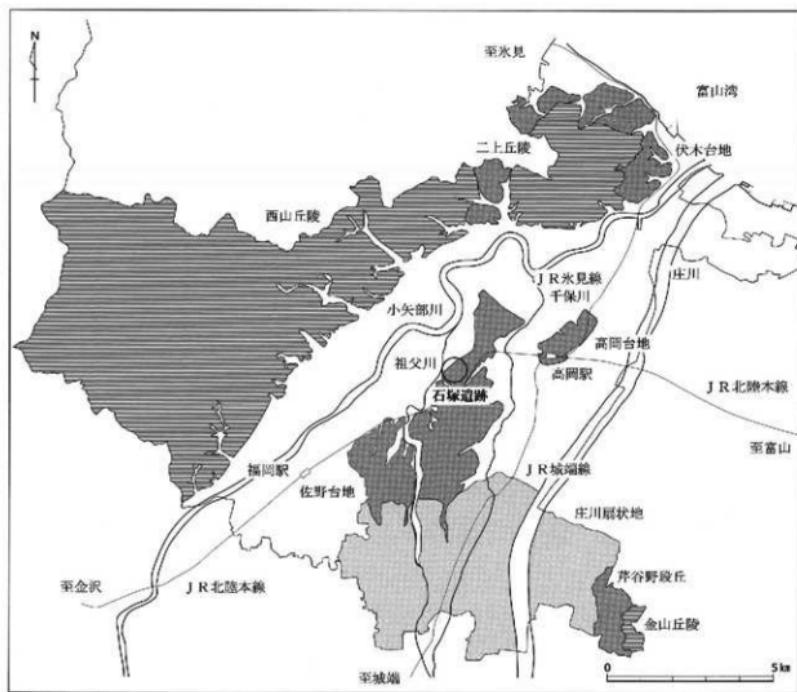
図版01 遺構 石塚遺跡NTTドコモショップ地区	1. 調査地区遠景 (南東) 2. 調査地区近景 (南南西)
図版02 遺構 石塚遺跡NTTドコモショップ地区	1. 調査地区全景 (南南西) 2. 調査地区全景 (上方)
図版03 遺構 石塚遺跡NTTドコモショップ地区	1. 第2トレント全景 (東南東) 2. 第1トレント遺物出土状態 (西)
図版04 遺構 出来田南遺跡石川地区	1. 調査地区全景 (北東) 2. 調査地区全景 (北)
図版05 遺構 出来田南遺跡石川地区	1. 第1トレント全景 (東) 2. 第2トレント全景 (東南東) 3. 第3トレント全景 (東)
図版06 遺構 上北島遺跡石黒地区	1. 調査地区全景 (西) 2. 調査地区全景 (東)
図版07 遺構 上北島遺跡石黒地区	1. 第2トレント構SD03・04検出状態 (南) 2. 第1トレント遺物出土状態 (西)
図版08 遺構 石塚江之戸遺跡マルワード地区	1. 調査地区全景 (北) 2. 調査地区全景 (西)

調査参加者名簿

発掘 右黒洋一、石田敏行、今井啓一、大橋欣次、橋谷潤、河原康弘、小板透朗、小林央
澤井昭大、澤田和明、清水不二雄、新堂秀次、高岡誠一、高嶋輝雄、高橋克司
竹内吉三、田中弘子、中山賢富、島山行男、馬道弘一、藤井美紀、松田博一
松本真由美、向井光男、山崎一男、山城一夫

整理 安藤誠吾、大庭麻起子、橋谷潤、上坂智也、小島智子、小林央、武内麻美
長森久代、宮野美重子

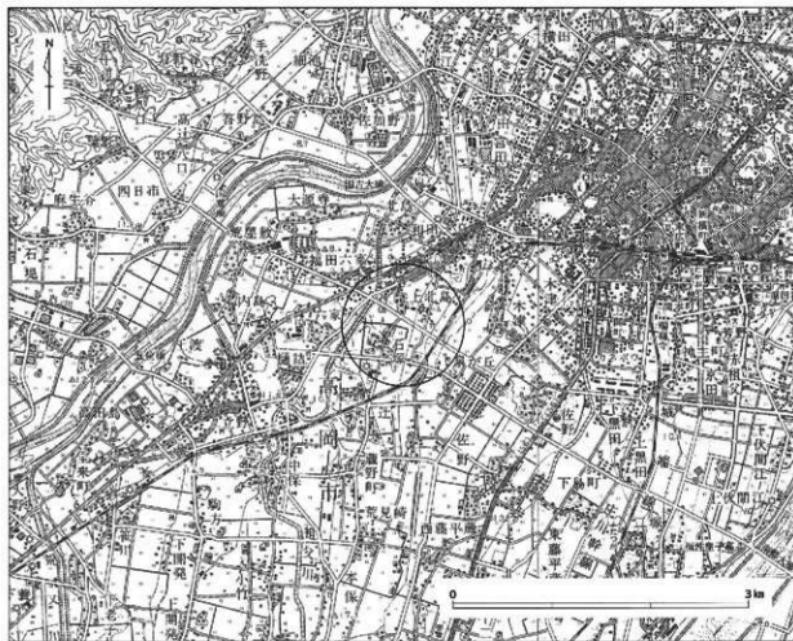
1. 石塚遺跡、N T T ドコモショップ地区



第1図 石塚遺跡位置図【1】（1／15万）

石塚遺跡NTTドコモショップ地区、目次

I 序 説	3	III 遺 物	7
II 遺 構	5	IV 結 語	8
1. 土坑	5		
2. 溝	5		
3. 回地	5		

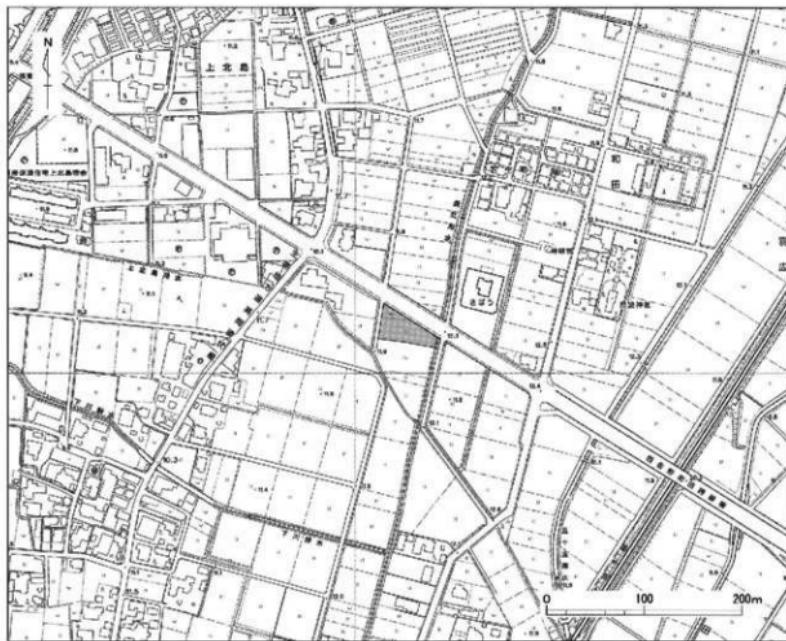


第2図 石塚遺跡位置図〔2〕（1／5万）

I 序 説

遺跡概観

「石塚遺跡」は、高岡市域の南西郊、JR高岡駅の西南西側約3.0km、JR西高岡駅の北東側約1.8kmに位置する。遺跡の東側にはJR北陸本線が走り、遺跡の中央北側は都市計画道路下伏間江福田線が東西に横断する。東側には和田川が北流し、西側には祖父川が北流する。これらに囲まれた標高11~12mを計る庄川扇状地の末端部、佐野台地上に立地している。古くから遺物が出土することが知られており、昭和41年からの土地改良事業に伴い、昭和42年に弥生土器・炭化米が出土したことにより遺跡として確認された。現在では、数々の発掘調査の成果により、弥生時代中期において県西部を代表する遺跡として知られている。また、古墳時代前期の遺構である石塚古墳群も存在し、周辺地の調査の進展により、その全体の規模が明らかになつた。この他、縄文時代後・晩期、奈良時代や中世の遺構・遺物が確認されており、縄文時代～中世に至る大規模な複合遺跡と認識されている。遺跡の範囲は東西約500m、南北約700mを計る。



第3図 石塚遺跡NTTドコモショップ地区位置図(1/5,000)

調査に至る経緯

平成17年8月に、仲介の不動産業者を通じて、当遺跡における店舗建設設計画を知った。その後、協議、承諾を得て、同年10月より試掘調査を実施するに至った。

調査経過

発掘調査は平成17年10月5日から同年10月21日まで実施した。遺跡の内容把握のため可能な限り遺構の範囲確認を行い、調査地区を設定した。表土はバックホーにより除去し、調査地区内に積み上げ、遺構の検出、確認、記録等の一連の作業を行った。調査対象面積は1,255m²、発掘調査面積は663m²である。

基本層序

厚さ約20cm前後の表土（耕作土）の下に、黄褐色砂質土からなる地山土（基盤層）を確認した。調査地区西側では、表土の下に凹地を各トレンチにおいて検出し、その広がりを確認した。

検出遺構

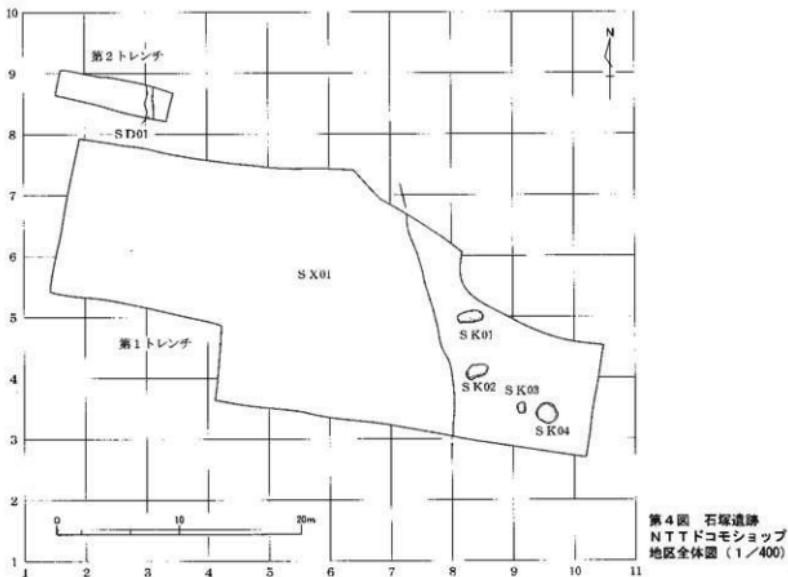
土坑4基（SK01～04）、溝1条（SD01）、凹地1箇所（SX01）

出土遺物

土器・陶磁器類：弥生土器、土師器、須恵器

グリッド

調査地区的グリッドは、世界測地系の平面直角座標系の第7座標系（原点は北緯36° 00' 00"、東経137° 10' 00"）に合わせた。東西をX軸とし、南北をY軸とした。グリッドの左下隅の数値がそのグリッドを表す。X=1、Y=1の地点は、原点より、西へ16.470km、北へ81.530kmへ向かった位置である。一辺5m四方を一区画とし、グリッドを割り付け、メッシュを表示した。



II 遺構

1. 土坑

土坑SK01

調査地区第1トレンチの南東部(8, 4・5)区で検出された。平面形は不定形を呈し、規模は長軸2.0m、短軸0.9m、深さ13cmを計る。出土遺物は弥生土器である。

土坑SK02

調査地区第1トレンチの南東部(8, 3・4)区で検出された。平面形は不定形を呈し、規模は長軸1.9m、短軸1.1m、深さ25cmを計る。出土遺物は弥生土器である。図示した遺物は第6図-1006である。

土坑SK03

調査地区第1トレンチの南東部(9, 3)区で検出された。平面形は不定形を呈し、規模は長軸0.9m、短軸0.6m、深さ14cmを計る。出土遺物は弥生土器である。図示した遺物は第6図-1003・1004・1005である。

土坑SK04

調査地区第1トレンチの南東部(9・3)区で検出された。平面形は不定形を呈し、規模は長軸1.7m、短軸1.5m、深さ22cmを計る。出土遺物は弥生土器である。図示した遺物は第6図-1001・1002・1007である。

2. 溝

溝SD01

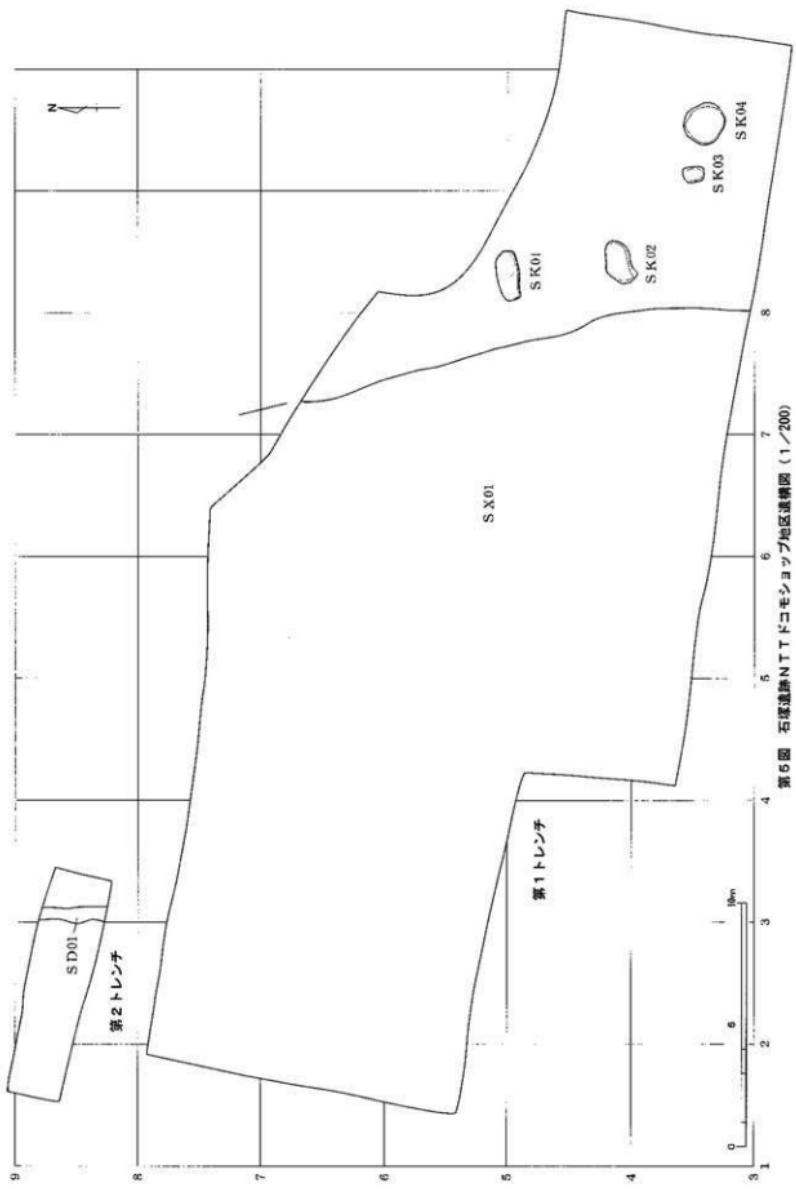
調査地区第2トレンチの南東部で検出された。直線的にほぼ南北方向に走る。規模は幅0.5~0.9m、長さ2.7m以上を計る。北側で調査地区外へ、南側は第2トレンチ外へ延びる。凹地SX01の堆積土の下層、地山検出面において確認した。

3. 凹地

凹地SX01

調査地区第1トレンチ西半部で検出された。北側は第2トレンチを越えて調査地区外へ、南側は調査地区外へ延びる。第2トレンチにおいて断面を観察したところ、人為的な掘込みが見られないことから、今回は凹地とした。過去の調査によると、平成6年度老子地区、平成16年度文苑堂地区試掘調査で確認された、凹地南側の延長部分と考えられる。老子地区では凹地の断面の観察状況から中世段階に整地層があり、下層に古墳時代の遺物包含層が確認されている。全体の規模から人為的な溝と考えるには規模が大きく、自然の小河川が埋没したものと思われる。出土遺物は弥生土器、土師器である。

第5図 石塚鉱業NTドコモショップ地区地質図 (1/200)



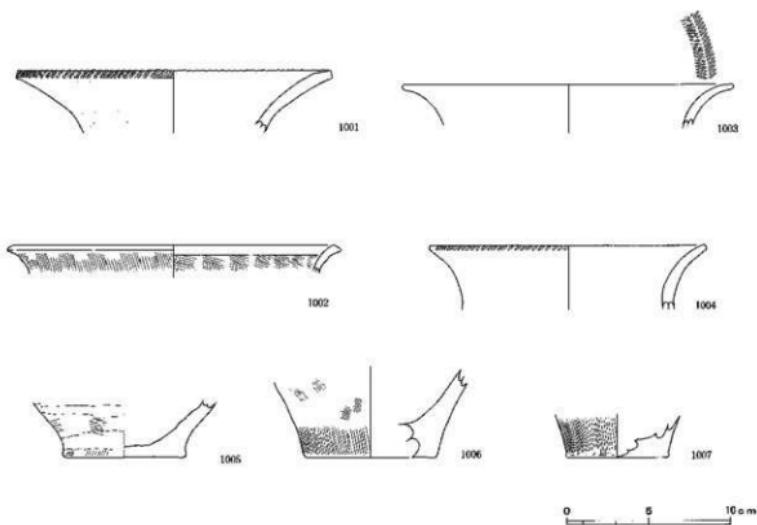
III 遺 物

1. 土器類

弥生土器

壺 第6図-1001・1005。1001は壺の口縁部である。口端部外面に櫛摺刻み目文が付く。1005は壺の底部である。調整は外面が刷毛目、ヘラ磨きである。

壺 第6図-1002～1004・1006・1007。1002～1004は壺の口縁部である。1002は内外面の調整が刷毛目である。1003は口端部内面に1条の櫛摺羽状列点文が付く。1004は口縁部外面に刻み目文が付く。1006・1007は壺の底部である。調整は外面が刷毛目である。



第6図 石塚遺跡NTTドコモショップ地区遺物実測図(1/3)

IV 結 語

石塚遺跡では、遺跡北側で実施した都市計画道路築造に伴う調査をはじめ、その他小規模な調査により、弥生時代中期を中心に、中世まで存続した遺跡であることが確認されている。これにより遺跡南東側、北側一帯を中心に関連の状況の把握が進展しつつある。今回の調査で、都市計画道路南側においても弥生時代の遺構・遺物を確認し、遺跡北側の集落遺跡としての内容の一端が把握できた。

また、昭和61～62年度の都市計画道路築造に伴う調査、平成3年度に実施した「林地区」、平成16年度に実施した「きぼう地区」などの既往の調査によって石塚古墳群の存在が確認されており、今回の調査地区においても古墳及び占墳に関連する遺構の存在が予想された。そのため、それらの遺構の確認を目的として調査地区を設定し調査を行った。

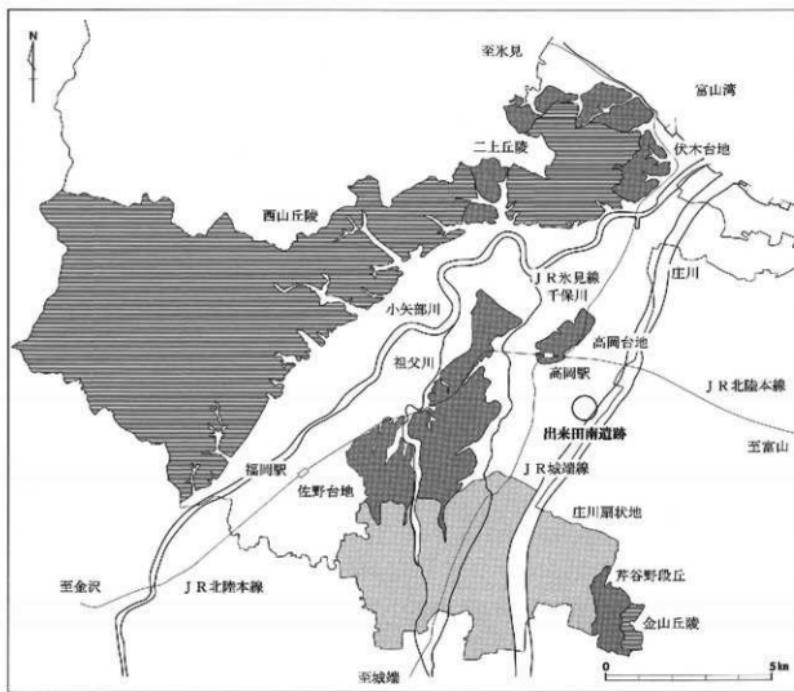
調査地区東側では土坑を4基検出したが、この範囲では古墳の周溝と思われる溝や、関連する遺構は確認できなかった。出土遺物や遺構権土の状態から、検出された遺構の大半は弥生時代に属するものと思われる。

調査地区西半部は回地S X01が広がる。回地S X01については、第1トレーナーにおいては、その遺構範囲の確認に止め、第2トレーナーでは地山面まで掘り下げ確認を行った。その結果、溝と西側へ向かって緩やかに落ち込む地形を確認した。この回地は平成7年の老子地区の調査、平成16年度の文苑町地区試掘調査から、北北東～南南東へ延びる大規模なものであることが確認されている。回地はさらに調査地区外南側へ拡がるものと考えられる。

今回は試掘調査のため、遺構の詳細な調査はできなかつたが、出土遺物は弥生時代を中心に、奈良時代から中世のものが若干占めている。調査地区的状態から都市計画道路南側一帯においても、弥生時代～中世にかけて遺構・遺物が分布している可能性がある。

石塚古墳群については、現在、その範囲は不明確である。今回の調査地区は石塚古墳群の南西側にあたり、この調査地区周辺も古墳群の範囲内と考えられていたが、古墳等の確認には至っていない。しかし、長江用水を挟んだ調査地区東側においても古墳群の存在が予想されており、今後の調査により確認される可能性が考えられる。

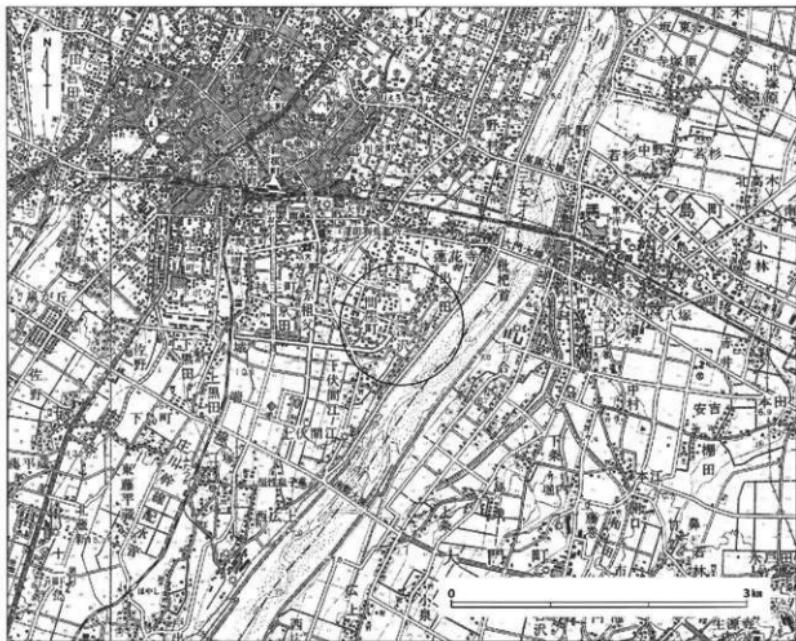
2. 出来田南遺跡、石川地区



第7図 出来田南遺跡位置図〔1〕（1／15万）

出来田南遺跡石川地区、目次

I 序 説	11	III 遺 物	15
		1. 土器類	15
II 遺 構	13	2. 土鍤	15
1. 土坑	13		
2. 灰	13		
		VI 結 語	16



第8図 出来田南遺跡位置図(2) (1/5万)

I 序 説

遺跡概観

当「出来田南遺跡」は、高岡市域の南東郊、J R高岡駅の南東約7kmに位置する。出来田集落の南西側、高岡問屋センター遺跡の東側に当たる。遺跡の北側には諏訪神社がある。北西には地久子川が北流し、東側には庄川が北東方向に流れる。標高約8~10mの沖積低地にあたり、遺跡東側は庄川へ向かって落ち込む地形となっている。この沖積低地上には、当遺跡以外にも数々の遺跡が分布している。

当遺跡の西側には赤祖父角田遺跡があり、昭和21年には赤土器が出土している。南西側には高岡問屋センター遺跡があり、昭和45年の団地造成の際に、織文土器、土師器、須恵器が出土したとされる。平成2年度に当市教育委員会により実施された分布調査により、当遺跡と北側の井口本江遺跡が確認されている。市街地化が進んだ段階での調査のため、これらの遺跡範囲は明確ではなく、時代によっては一つの遺跡としてとらえる見方も考えられる。遺跡の範囲は南北約170m、東西約130mを計る。



第9図 出来田南遺跡石川地区位置図 (1/5,000)

調査に至る経緯

平成17年9月に高岡市農業委員会からの照会により、当遺跡における農地転用と住宅建設計画を知るところとなった。このため、施主の石川和明氏との協議、承諾を得て、同年10月より試掘調査を実施するに至った。調査地区は諫訪神社の南側にあたり、高岡問屋センターの東側、出来田集落の南西側に位置する。遺跡範囲の南側にある。

調査経過

発掘調査は平成17年10月12日から同年10月28日まで実施した。当初、試掘坑（トレンチ）を3箇所（第1～3トレンチ）設定した。各トレンチはバックホーにより表土を除去し、調査地区内に積み上げた。この際、各トレンチから遺構を検出した。そこで第1トレンチを拡張し遺構の範囲確認に努めた。表土除去後、遺構の検出、確認、記録という一連の作業を行った。今回は試掘調査のため、必要箇所を除いて遺構の掘下げは行っていない。調査対象面積は264.47m²、発掘調査面積は54m²である。

基本層序

平均20cm前後の表土（耕作土）の下に、黄褐色砂質土からなる地山土（基盤層）を確認した。調査地区南側では表上下に、厚さ5cm前後で暗灰褐色粘質土からなる遺物包含層が堆積している。地山は東側へ向けて緩やかに落ち込み、道路を挟んで東側は庄川へ向かい比高差をもって落ち込む。今回の調査地区内では、遺構の覆土は暗灰褐色土を主体としている。遺構の中にはこの他にも灰色土からなるものが見られる。切り合ひ関係のわかるものは限られるが、一部に灰色土が暗灰褐色土を切っている遺構が見られるため、灰色土からなる遺構が新しい段階のものと思われる。今回は試掘調査のため、検出面での確認にとどまることから明確にこれらの時期差を認めるることはできなかった。

なお、遺構検出面の状態では、調査地区内は区画整理の際に削平を受けているものと思われる。

検出遺構

検出遺構は次の通りである。

土坑3基（SK01～03）

溝5条（SD01～05）

出土遺物

出土遺物は次の通りである。

土器・陶磁器類：土師器、須恵器、肥前

上製品：土鍬

グリッド

調査地区的グリッドは、世界測地系の平面直角座標系の第7座標系（原点は北緯36° 00' 00"、東経137° 10' 00"）に合わせた。東西をX軸とし、南北をY軸とした。

グリッドの左下隅の数値がそのグリッドを表す。X=1、Y=1の地点は、原点より、西へ12.240km、北へ80.780kmへ向かった位置である。

一边5m四方を一区画とし、グリッドを割り付け、メッシュを表示した。

II 遺構

1. 土坑

土坑SK01

調査地区第1トレンチの北西部(1, 4)区で検出された。平面形は不定形を呈し、規模は長軸1.1m以上、短軸0.6m以上を計る。南側で第1トレンチ外へ延びる。

土坑SK02

調査地区第3トレンチの西端部(1, 1)区で検出された。平面形は不定形を呈し、規模は長軸0.5m以上、短軸0.45m以上を計る。南西側で第3トレンチ外へ延びる。出土遺物は土師器、須恵器である。

土坑SK03

調査地区第3トレンチの南西部(1, 1)区で検出された。平面形は不定形を呈し、規模は長軸0.5m以上、短軸0.35m以上を計る。北側でSD01に切られる。出土遺物は土師器、須恵器である。

2. 溝

溝SD01

調査地区第3トレンチの西部で検出された。東北東～西南西方向に走る。規模は幅0.8～1.1m、深さ27cm、長さ12m以上を計る。南東側で落ち込みと繋がる。北側は第3トレンチ外へ延び、西側は調査地区外へ延びる。出土遺物は土師器、須恵器、肥前である。図示した遺物は、第12図-2002・2006・2008である。

溝SD02

調査地区第3トレンチの西部で検出された。北西から南東方向に走る。規模は幅0.5～0.7m、長さ1.0m以上を計る。遺構上面は、北側でSD01で切られ、南側で調査地区外へ延びる。

溝SD03

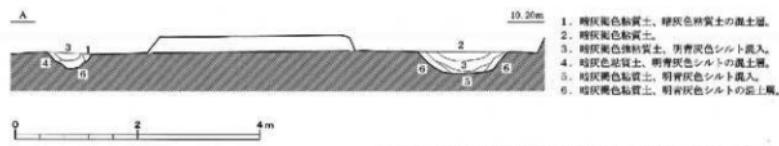
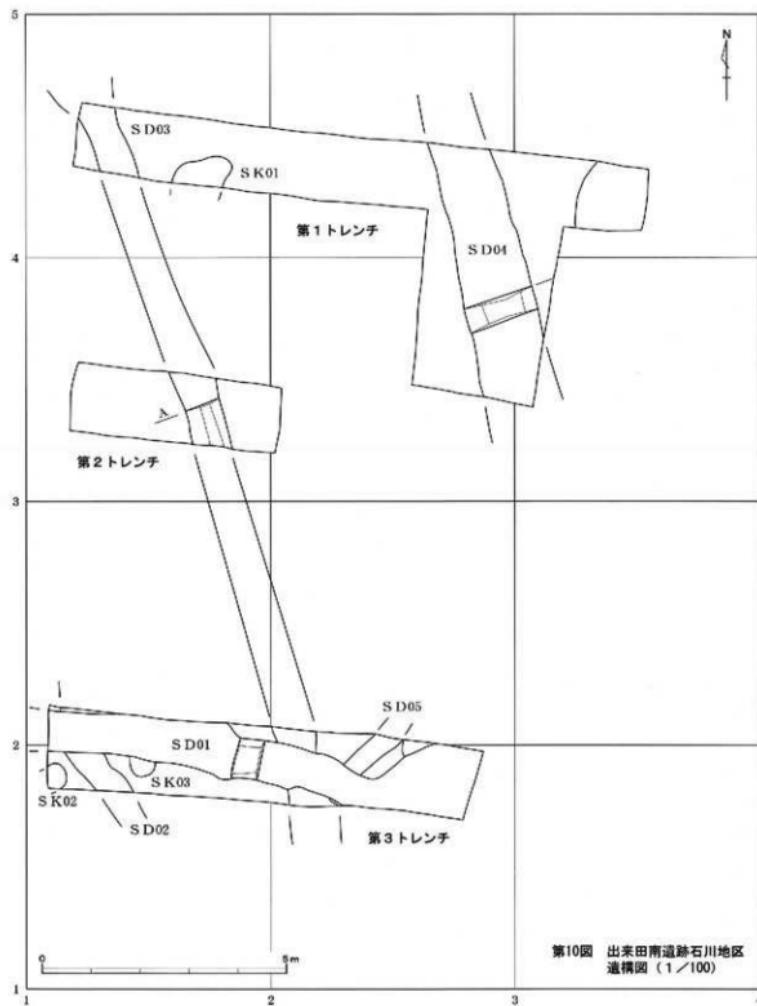
調査地区第1トレンチの北西端部、第2トレンチと第3トレンチ中央で検出された。各トレンチの検出状態と規模から1本の溝と判断した。直線的に北北東～南南西方向に走る。規模は幅0.6～0.8m、深さ28cm、確認した範囲では長さ15m以上を計る。また、第3トレンチでSD01に切られ、北西側、南東側で調査地区外へ延びる。出土遺物は土師器、須恵器、土錐である。図示した遺物は、第12図-2001、第13図-2101である。

溝SD04

調査地区第1トレンチの東側で検出された。ほぼ直線的に北北東から南南西方向に走る。規模は幅1.2～1.4m、深さ35cm、長さ5.5m以上を計る。北側は調査地区外へ延び、南側は第1トレンチ外へ延びる。出土遺物は土師器、須恵器である。図示した遺物は、第12図-2003・2004・2005である。

溝SD05

調査地区第3トレンチの東部で検出された。ほぼ直線的に北東から南西方向に走る。規模は幅0.4～0.5m、長さ1.2m以上を計る。南西側でSD01に切られる。北西側は第3トレンチ外へ延びる。



III 遺 物

1. 土器類

土師器

椀 第12図-2001・2002。椀の底部である。2002は内面が黒色処理される。

須恵器

杯B 第12図-2003・2004。高台の付く杯の底部である。

杯口縁部 第12図-2005。杯の口縁部である。

杯蓋 第12図-2006・2007。杯蓋の口縁部である。

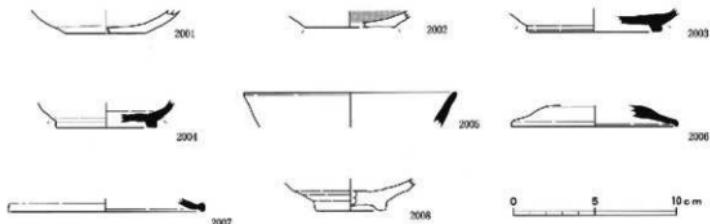
肥前

椀 第12図-2008。椀の底部である。

2. その他の遺物

土製品

土鐘 第13図-2101。土師質、柱状の土鐘である。



第12図 出来田南遺跡石川地区土器実測図 (1/3)



第13図 出来田南遺跡石川地区土製品実測図 (1/2)

IV 結語

出来山南遺跡では、平成11年に実施した調査をはじめ、その他小規模な調査により、奈良平安時代を主体とした遺跡であることが確認されている。遺跡の南～南東側一帯を中心に内容の把握が進展しつつある。今回の調査では、遺跡南側においても奈良平安時代の遺構、遺物を確認し、遺跡の主要となる年代と集落遺跡としての内容の一端を確認した。

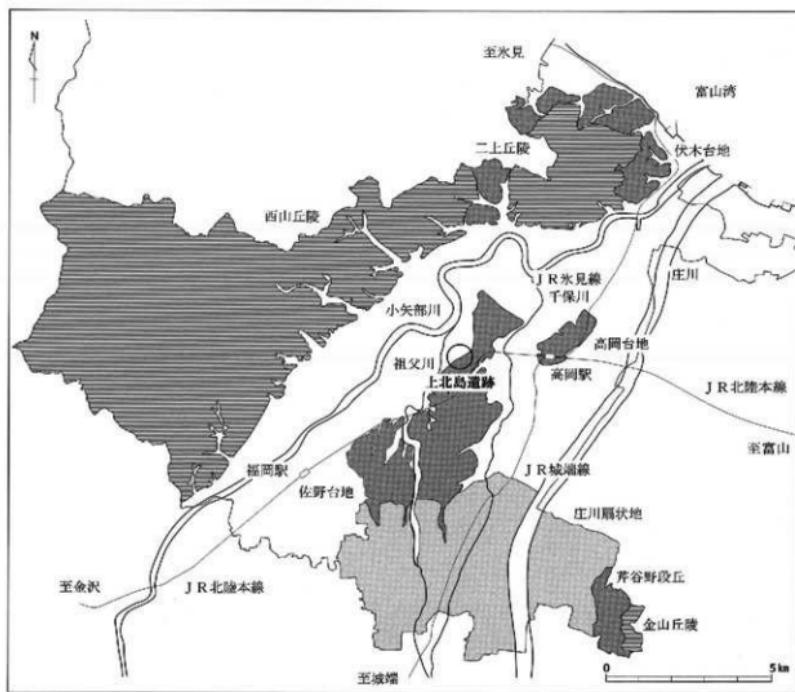
検出された遺構の大半は奈良平安時代に属すると思われる。溝の一部については、南東～北西方向を意識してつくられた可能性があり、配置に規格性を窺うことができる。また、確認した範囲では2本の溝SD03、04が平行に走る箇所がある。部分的な検出であり、全体像が確認出来ていないが、道路址である可能性も考えられる。今回は溝としたが、今後の周辺調査に検討が必要である。

遺構の中には調査地区外へ拡がるものもあることから、調査地区南側周辺にもこの時期の遺構・遺物が分布している可能性がある。

山上遺物は奈良時代から平安時代前期頃のものが大半を占めている。古墳時代や中世の遺物は確認できなかつた。

今回の調査地区周辺が出来山南遺跡の範囲南端部にあたると考えられていたが、奈良・平安時代の遺構、遺物が確認されたことで、さらに遺跡範囲が南側へ広がる可能性が高まつた。

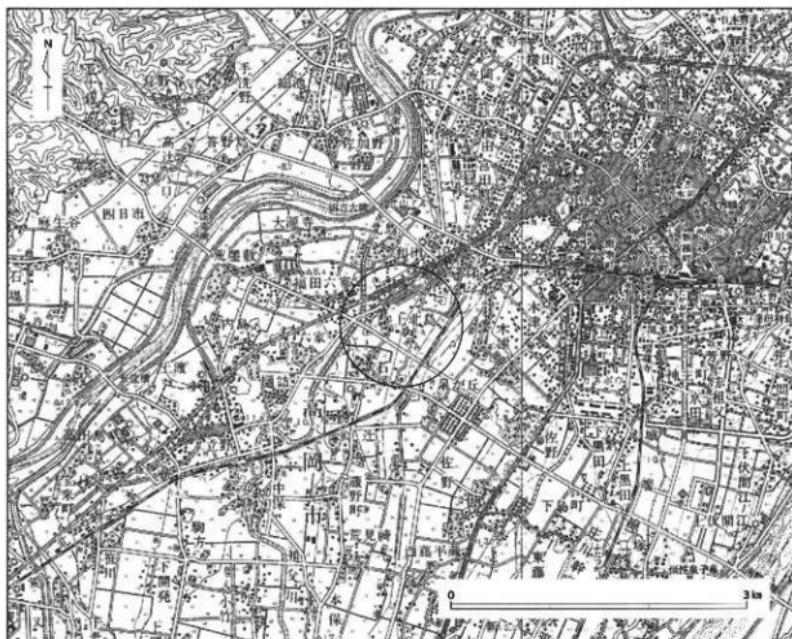
3. 上北島遺跡、石黒地区



第14図 上北島遺跡位置図〔1〕 (1/15万)

上北島遺跡石黒地区、目次

I 序 説	19	III 遺 物	23
II 遺 構	21	VI 結 語	24
1. 土坑	21		
2. 溝	21		



第15図 上北島遺跡位置図〔2〕(1/5万)

I 序 説

遺跡概説

当「上北島遺跡」は、高岡市街地の南西側、JR高岡駅の西南西約3.0kmに位置する。北側を国道8号線や旧北陸道である一般地方道立野鶴島線が南北から北東方向に走り、和田集落が沿線沿いに位置する。東側をJR北陸本線が南北から北東方向に走る。南東側には長江用水、和田川が北流する。西側を祖父川が北流し、主要地方道高岡環状線が走る。周辺一帯は庄川により形成された扇状地末端に当たり、その中でも標高11~12mを計る微高地上に位置する。遺跡範囲の中央部には上北島神社がある。遺跡周辺には数々の遺跡が存在する。南側には石塚遺跡があり、県西部を代表する弥生時代中期の遺跡として知られる。北側には下北島住吉遺跡があり、南西側には石塚江之戸遺跡がある。当地周辺には、式内社荒波神社の伝承がある。平成2年度に当市教育委員会により埋蔵文化財分布調査を実施し、遺跡の存在と範囲を確認したものである。平安時代から中世を中心とした遺跡とされ、遺跡範囲は、南北140m、東西130mを計る。



第16図 上北島遺跡石塚地区位置図 (1/5,000)

調査に至る経緯

平成18年9月に市農業委員会からの照会で、当遺跡における農地転用と共同住宅建設計画を知った。このため地主の石黒栄信氏と施工の大東建設（株）と協議し、承諾を得て、試掘調査を実施するに至った。調査地区の南側には若生町、東側には上北島集落がある。遺跡の南東側に当たる。

調査経過

発掘調査は平成17年11月10日から同年11月11日まで実施した。表土除去はバックフォーで行い、調査地区内に積み上げた。当初、試掘坑（トレーナー）を2箇所設定した。調査地区東側を中心に遺構と思われる十層を検出し、遺物が出土した。第1トレーナーの拡張を行い、この範囲の遺構の確認に努めた。その後、遺構の検出、確認、記録の作成を順次行った。今回は試掘調査のため遺構は検出面での確認に止め、一部の遺構は部分的に掘下げ、規模と内容の確認を行った。

また、公共座標は設定せず、任意の測量である。平板による実測図は調査地区遺構図として第17図に図示した。

調査対象面積は818.8m²、調査面積は196m²である。

基本層序

基本層序は、厚さ20cmの表土（耕作土）の下に、黄褐色砂質土からなる地山土が現れる。第2トレーナー東端部からは構が検出された。上層から厚さ20cmの表土（耕作土）、厚さ20cm前後の灰褐色粘質土層、厚さ20cmの暗灰色粘質土層の順に堆積し、厚さ5cm前後の淡灰色粘質土層があり、黄褐色砂質土乃至青灰色砂質土からなる地山土が現れる。遺構検出状態から、調査地区全体で地山まで削平を受けていると思われる。

検出遺構

検出遺構は以下の通りである。

溝4条（S D01～04）

土坑5基（S K01～05）

この他に調査地区北側より溝状の落ち込み1箇所を検出した。一部を掘下げて土層を観察した。遺構覆土の状態を考慮して近世以降の構と判断した。また2基のピットを検出した。

出土遺物

出土遺物は以下の通りである。

土器・陶磁器類；弥生土器、土師器、須恵器

II 遺構

1. 土坑

土坑SK01

調査地区南東部、第1トレンチの東端部で検出した。平面形は橢円形である。規模は長軸1.05m以上、短軸0.6m以上を計る。北側は第1トレンチ外へ拡がる。

土坑SK02

調査地区南東部、第1トレンチの中央部南側で検出した。平面形は不定形である。規模は長軸2.2m以上、短軸0.6m以上を計る。南側は調査地区外へ拡がる。

土坑SK03

調査地区北西部、第2トレンチの中央部西側で検出した。平面形は方形である。規模は長軸0.9m以上、短軸0.8m以上を計る。南側は第2トレンチ外へ拡がる。出土遺物は十師器である。

土坑SK04

調査地区北西部、第2トレンチの中央部西側で検出した。平面形は橢円形である。規模は長軸0.85m以上、短軸0.75mを計る。北側は調査地区外へ拡がる。

土坑SK05

調査地区北西部、第2トレンチの中央部西側で検出した。平面形は橢円形である。規模は長軸1.1m以上、短軸0.55m以上を計る。南側は第2トレンチ外へ拡がる。出土遺物は弥生土器である。図示した遺物は第18図-3002である。

2. 溝

溝SD01

調査地区東端部、第1トレンチの東側で検出した。西北西から東南東方向に延びる溝である。規模は長さ5.2m以上、幅0.2~0.8cmを計る。東側は落ち込みに切られる。遺物は弥生土器が出土している。図示した遺物は第18図-3001である。

溝SD02

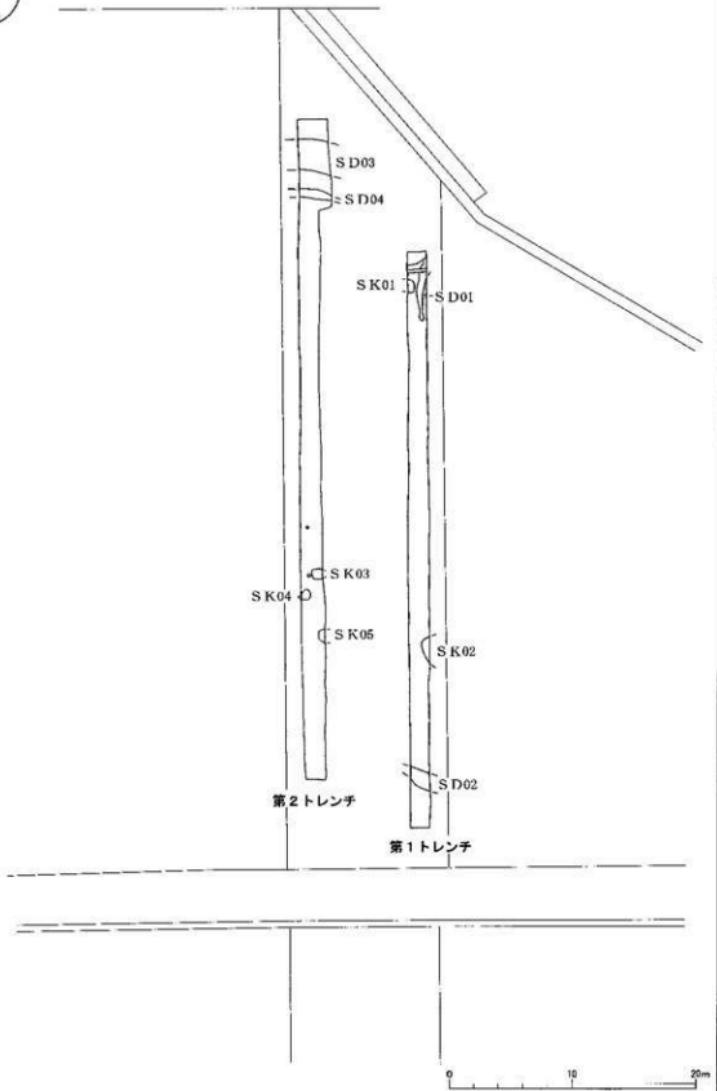
調査地区西端部、第1トレンチの西端部で検出した。規模は長さ1.6m以上、幅0.8~1.35cmを計る。南側は調査地区外へ延び、北側は第1トレンチ外へ延びる。

溝SD03

調査地区北東部、第2トレンチの東端部で検出した。規模は長さ2.4m以上、幅2.6cmを計る。深さは47cmまで確認し、さらに深くなると思われる。南側は第2トレンチ外へ、北側は調査地区外へ広がる。出土遺物は土師器、須恵器である。図示した遺物は第18図-3004である。

溝SD04

調査地区北東部、第2トレンチの東端部で検出した。規模は長さ2.4m以上、幅0.4~0.8cmを計る。南側は第2トレンチ外へ、北側は調査地区外へ広がる。出土遺物は土師器である。



第17図 上北島遺跡石黒地区遺構図 (1/400)

III 遺 物

1. 土器類

弥生土器

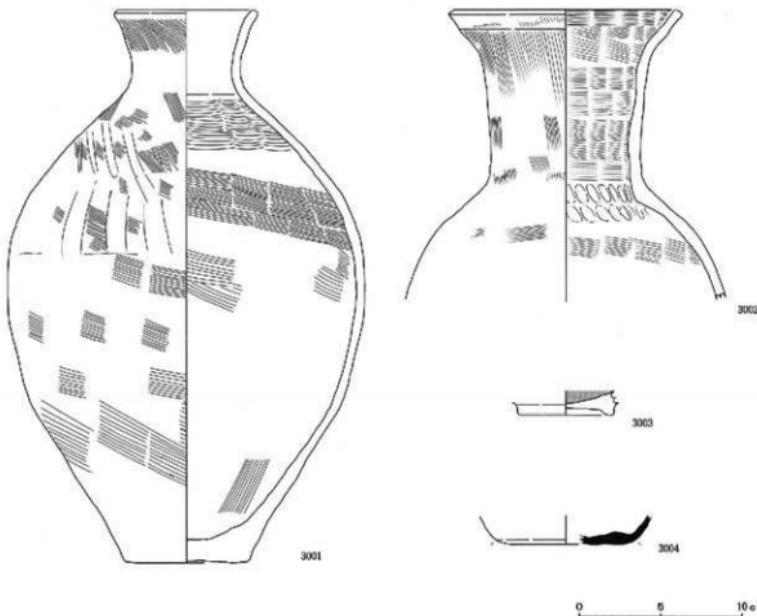
壺 第18図-3001・3002。3001は口縁部が僅かに外上方へ拡がるものである。調整は外面が刷毛目、ヘラ磨きである。3002は壺の口縁部～肩部である。頸部が長く伸び、口縁部は外上方へ拡がる。調整は外面刷毛目で、内面は刷毛目を基調とし、一部指圧痕が付く。

土師器

碗 第18図-3003。碗の底部である。内面は黒色処理されている。底部外面に糸切痕が付く。

須恵器

杯A 第18図-3004。高台の付かない杯である。杯身の底部である。



第18図 上北島遺跡石器地区遺物実測図 (1 / 3)

IV 結語

上北島遺跡は、平成2年度に実施した埋蔵文化財分布調査により遺跡の内容と範囲が確認された。主要な時期は平安時代から中世にかけての遺跡である。上北島神社を中心に遺跡が広がる。

今回の調査は遺跡の南東側に当たり、初めての発掘調査となる。試掘調査の性格上、遺跡の性格や内容の把握には限界があるが、調査地区東側を中心に遺構、遺物を確認し、遺跡の年代と性格の一端を把握した。

検出した遺構は、土坑5基、溝4条である。遺構は調査地区内で散発的に確認した。このうち調査地区東側で検出された溝S D03は、深さが地表下約50cm以上、幅約2.4m以上を計る規模の大きいものである。遺構の覆土は黒色粘質土を中心とし、他の遺構とは大きく異なる。出土遺物から時期は奈良平安時代と思われる。規模が大きく、全体を確認できなかったので、今回は溝とした。この他の遺構は覆土が灰褐色土を主としており、異なる時期のものと考えている。

この他に調査地区内には弥生土器が出土しており、奈良平安時代の他に、弥生時代の遺構・遺物が分布していると思われる。南側に隣接する石塚遺跡との関連が注目される。今後、調査地区周辺において同時期の遺構、遺物が確認される可能性がある。

4. その他の遺跡

その他の遺跡、目次

I	越中国府関連遺跡麦谷地区	26
II	中川遺跡光慶寺地区	27
III	瑞龍寺遺跡小竹地区	28
IV	越中国府関連遺跡ア・ライズ伏木地区	29
V	守護町遺跡玉川地区	30
VI	越中国府関連遺跡シマダ木材地区	31
VII	中保B遺跡政瀬地区	32
VIII	越中国府関連遺跡放地地区	33
IX	越中国府関連遺跡串田地区	34
X	石塚江之戸遺跡マルワード地区	35

I 越中国府関連遺跡麦谷地区

遺跡概観

当「越中国府関連遺跡」は、高岡市街地の北側、小矢部川の河口左岸、伏木台地一帯に位置する。越中国府、越中国分寺推定地として知られる。

基本層序

厚さ約10cmの表土（整地層）の下は、厚さ約40cmの茶褐色粘質層が現れる。この下層に黄褐色粘質土乃至赤褐色粘質土の基盤層が現れる。

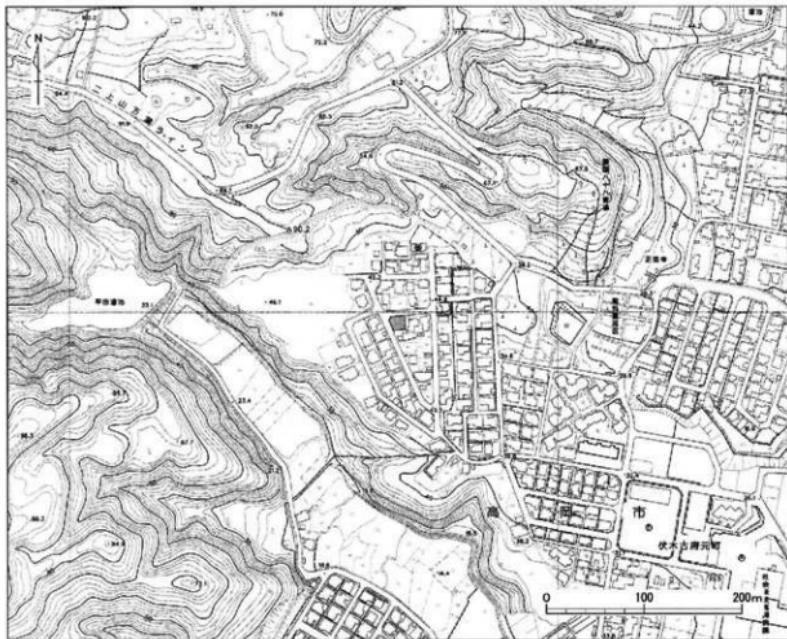
調査概要

所在地：高岡市伏木古府元町515番68他、 対象面積：307.46m²、 発掘面積：31m²

調査期間：平成17年4月20日～同年4月21日、 調査原因：個人住宅建設

調査結果

遺構は検出されなかった。遺物は出土していない。



第19図 越中国府関連遺跡麦谷地区位置図 (1/5,000)

II 中川遺跡光慶寺地区

遺跡概観

当「中川遺跡」は、高岡市街地の東側、JR高岡駅の東北東約1.6kmに位置する。高岡城（古城公園）の位置する高岡台地の北側に当たる。古くから縄文時代の遺跡として周知されている。

基本層序

厚さ約20cmの表土の下層は、厚さ約20cmの灰褐色粘質土が現れる。その下層に黄褐色粘質土を主とする基盤層が現れる。

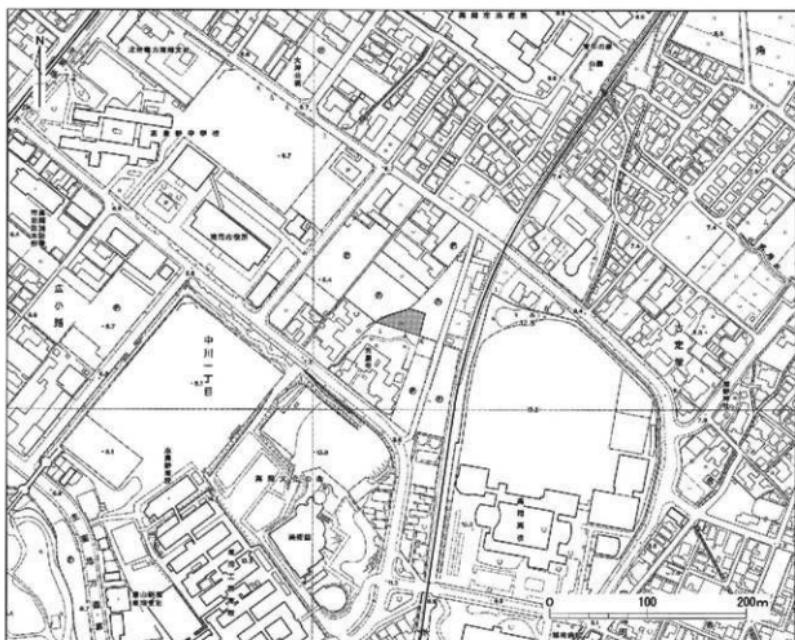
調査概要

所在地：高岡市中川1丁目104番、対象面積：611m²、発掘面積：63m²

調査期間：平成17年7月21日、調査原因：墓地造成

調査結果

遺構は検出されなかった。遺物は、縄文土器、土師器等が出土した。



第20図 中川遺跡光慶寺地区位置図 (1/5,000)

III 瑞龍寺遺跡小竹地区

遺跡概観

当「瑞龍寺遺跡」は、高岡市街地の南側、JR高岡駅の西南西約0.8kmに位置する。当遺跡の北東部に当たる。加賀藩2代前田利長の菩提寺として江戸時代初期に造営された伽藍配置と旧寺域一帯である。

基本層序

厚さ約20cmの表土の下は、厚さ60cm前後の灰褐色粘質土の層がある。この下層に灰色粘質土の土層があり、さらに下層に黄色砂質土の基盤層を確認した。

調査概要

所在地：高岡市関本町114、 対象面積：257.5m²、 発掘面積：53m²

調査期間：平成17年8月9日～同年8月10日、 調査原因：個人住宅建設

調査結果

遺構は検出されなかった。遺物は土師器、珠洲、中近世陶磁器、焼瓦が出土した。



第21図 瑞龍寺遺跡小竹地区位置図（1/5,000）

IV 越中国府関連遺跡ア・ライズ伏木地区

遺跡概観

当「越中国府関連遺跡」は、高岡市街地の北側、小矢部川の河口左岸、伏木台地一帯に位置する。越中国府、越中国分寺推定地として知られる。

基本層序

厚さ約20cmの表土の下は、厚さ20~50cm前後の茶褐色砂質土の層があり、近代以降の整地層と思われる。この下に黄褐色粘質土等の基盤層が現れる。調査地区北西側は、深い谷のため、南東側を中心に調査を行った。

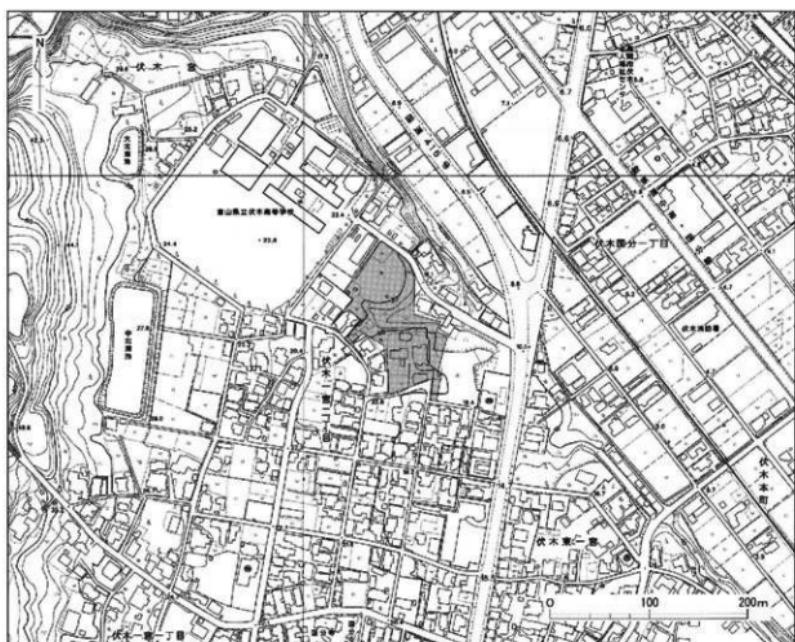
調査概要

所在地：高岡市伏木一宮2丁目413-1他、 対象面積：9,141.19m²、 発掘面積：71m²

調査期間：平成17年9月14日～同年9月16日、 調査原因：分譲宅地造成工事

調査結果

遺構は土坑、溝を検出した。遺物は土師器、須恵器が出土している。



第22図 越中国府関連遺跡ア・ライズ伏木地区位置図（1/5,000）

V 守護町遺跡玉川地区

遺跡概観

当「守護町遺跡」は、高岡市街地の北方、JR高岡駅の北側約3kmに位置する。北側は二上山が控え、西～南側は小矢部川が蛇行しながら流れる。この小矢部川と千保川との合流点に位置する。

基本層序

厚さ約10cmの表土の下は、厚さ50～60cmで暗褐色粘質土の整地層が現れる。この下層には厚さ約10cmの暗灰色砂質土がある。この下に黄褐色砂質土の基盤層がある。

調査概要

所在地：高岡市守護町2丁目244-3、対象面積：115m²、発掘面積：9m²

調査期間：平成17年8月29日、調査原因：駐車場建設

調査結果

遺構は検出されなかった。遺物は出土していない。



第23図 守護町遺跡玉川地区位置図 (1/5,000)

VI 越中国府関連遺跡シマダ木材地区

遺跡概観

当「越中国府関連遺跡」は、高岡市街地の北側、小矢部川の河口左岸、伏木台地一帯に位置する。越中国府、越中国分寺推定地として知られる。

基本層序

厚さ約10cmの表土の下は、厚さ約40cmの茶褐色粘質層（整地層）が現れる。近代の瓦生産に伴うものと思われる。この下層に黄褐色粘質土乃至赤褐色粘質土の基盤層が現れる。

調査概要

所在地：高岡市伏木古府221他、 対象面積：2,245.51m²、 発掘面積：126m²

調査期間：平成17年9月8日～同年9月9日、 調査原因：住宅団地造成工事

調査結果

遺構は検出されなかった。遺物は出土していない。



第24図 越中国府関連遺跡シマダ木材地区位置図（1／5,000）

VII 中保B遺跡政瀧地区

遺跡概観

当「中保B遺跡」は、高岡市街地の南西郊、祖父川の左岸、標高10~13mの微高地に位置する。昭和39年の農業構造改善事業の工事により発見され、近年では土地区画整理事業に伴う発掘調査が実施された。

基本層序

厚さ約20cmの表土（耕作土）の下は、厚さ約40cmの灰色粘質層、灰色土と白色土の混土層がある。この下層に灰色砂質土の基盤層が現れる。

調査概要

所在地：高岡市中保1463、 対象面積：342m²、 発掘面積：28m²

調査期間：平成17年10月25日、 調査原因：個人住宅建設

調査結果

遺構は検出されなかった。遺物は出土していない。



第25図 中保B遺跡政瀧地区位置図 (1/5,000)

VIII 越中国府関連遺跡放地地区

遺跡概観

当「越中国府関連遺跡」は、高岡市街地の北側、小矢部川の河口左岸、伏木台地一帯に位置する。越中国府、越中国分寺推定地として知られる。

基本層序

厚さ約20cmの表土（整地層）の下は、厚さ約30cmの茶褐色粘質層が現れる。この下層に黄褐色粘質土乃至黄褐色砂質土の基盤層が現れる。

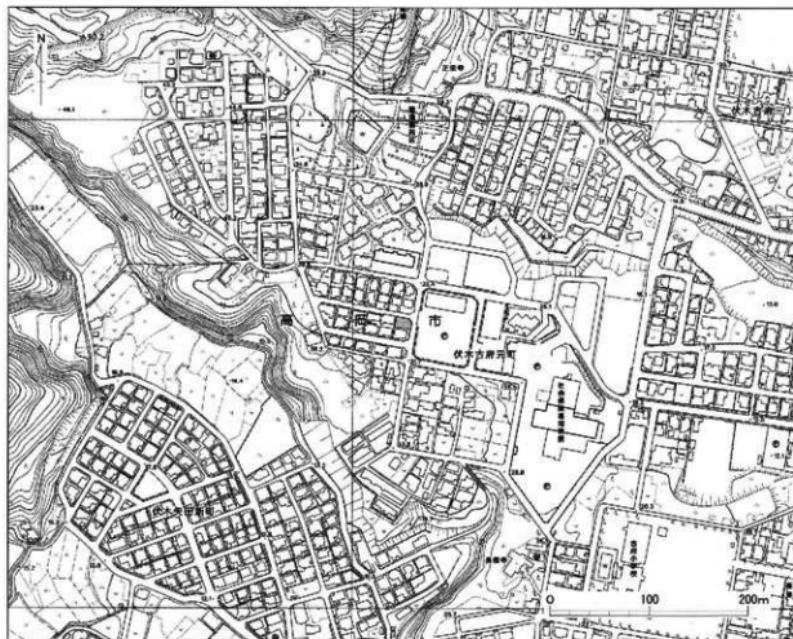
調査概要

所在地：高岡市伏木古府元町487番22、 対象面積：187.9m²、 発掘面積：23m²

調査期間：平成17年11月1日、 調査原因：個人住宅建設

調査結果

遺構は検出されなかった。遺物は出土していない。



第26図 越中国府関連遺跡放地地区位置図 (1/5,000)

IX 越中国府関連遺跡串田地区

遺跡概観

当「越中国府関連遺跡」は、高岡市街地の北側、小矢部川の河口左岸、伏木台地一帯に位置する。越中国府、越中国分寺推定地として知られる。

基本層序

厚さ約40cmの表土（整地層）の下は、厚さ約80cmの茶褐色粘質層が現れる。この下層に灰白色粘質土の基盤層が現れる。

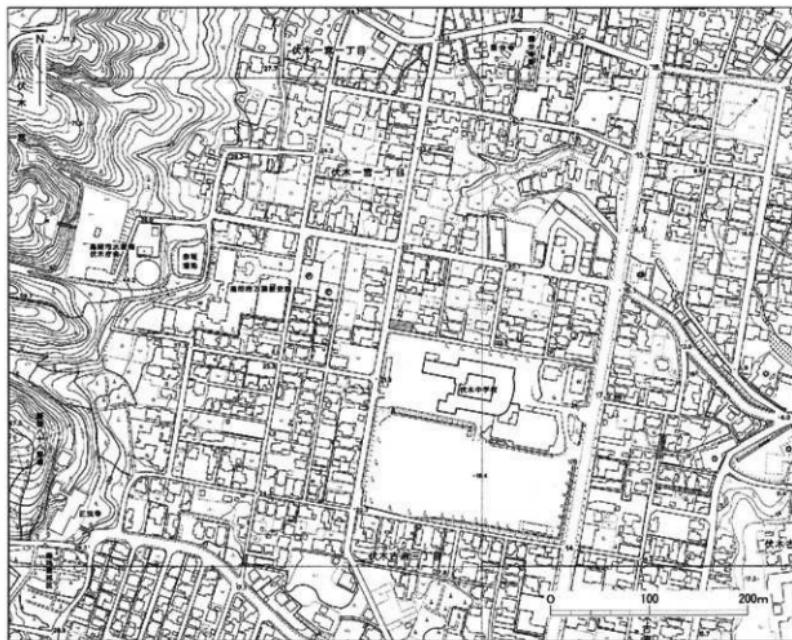
調査概要

所在地：高岡市伏木一宮1丁目677番、 対象面積：463m²、 発掘面積：78m²

調査期間：平成17年11月2日～同年11月4日、 調査原因：個人住宅建設

調査結果

遺構は検出されなかった。遺物は土師器、須恵器、古代瓦が出土している。



第27図 越中国府関連遺跡串田地区位置図 (1/5,000)

X 石塚江之戸遺跡マルワード地区

遺跡概観

当「石塚江之戸遺跡」は、高岡市街地の南西郊、JR高岡駅の西南西約3.4kmに位置する。遺跡の西側を祖父川が蛇行しながら北流し、国道8号線が北東～南西方向に走る。遺跡中央部は主要地方道高岡環状線が南北に走る。遺跡範囲は南北150m、東西125mを計る。

基本層序

厚さ約20cmの表土の下に、黄褐色粘質土の基盤層が現れる。

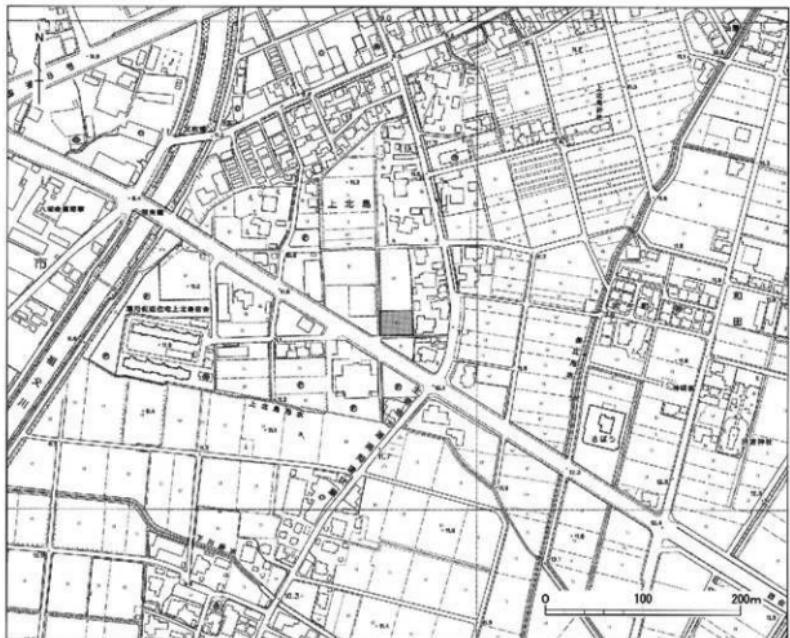
調査概要

所在地：高岡市上北島250番地、対象面積：859m²、発掘面積：228m²

調査期間：平成18年3月9日～同年3月13日、調査原因：駐車場造成

調査結果

遺構は土坑、溝を検出した。遺物は土師器、須恵器、珠獣が出土している。



第28図 石塚江之戸遺跡マルワード地区 (1/5,000)

報告書抄録

ふりがな	しあわせちじょうじゆうじゅうじゅう							
書名	市内遺跡調査概報 XVI							
副書名	平成17年度、上北島遺跡の調査他							
シリーズ名	高岡市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第64冊							
編著者名	荒井隆							
編集機関	高岡市教育委員会							
所在地	〒933-8601 富山県高岡市広小路7番50号							
発行年月日	西暦 2006年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	所在地	コ一ド		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
石塚遺跡	富山県高岡市	016202	202158	36° 44' 05"	136° 58' 59"	051005 ～ 061021	663m ²	店舗建設
NTTドコモショップ地区	上北島							
出水川南遺跡	富山県高岡市	016202	202139	36° 43' 40"	137° 01' 46"	031012 ～ 051028	54m ²	住宅建設
石川地区	山栗田							
上北島遺跡	富山県高岡市	016202	202156	36° 44' 11"	136° 58' 57"	051110 ～ 051111	196m ²	共同住宅建設
石黒地区	上北島							
その他の地区	富山県高岡市内	016202						住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
石塚遺跡	集落跡	弥生時代	土坑 溝 貯地	弥生土器 上嶋器 須恵器				
NTTドコモショップ地区								
出水川南遺跡	集落跡	奈良平安時代	土坑	土師器				
石川地区			溝	須恵器				
上北島遺跡	集落跡	弥生時代	土坑	弥生土器 上嶋器 須恵器				
石黒地区			溝					
その他の遺跡						※試掘調査地区		

図版〇一 遺構 石塚遺跡NTTドコモショップ地区

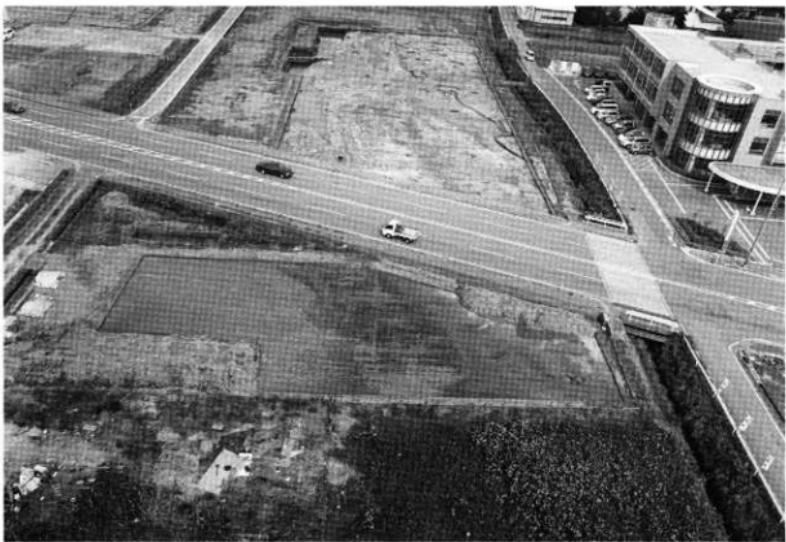


1. 調査地区遠景（南東）



2. 調査地区遠景（南南西）

図版〇一 遺構 石塚遺跡NTTコモショップ地区



1. 調査地区全景（南南西）

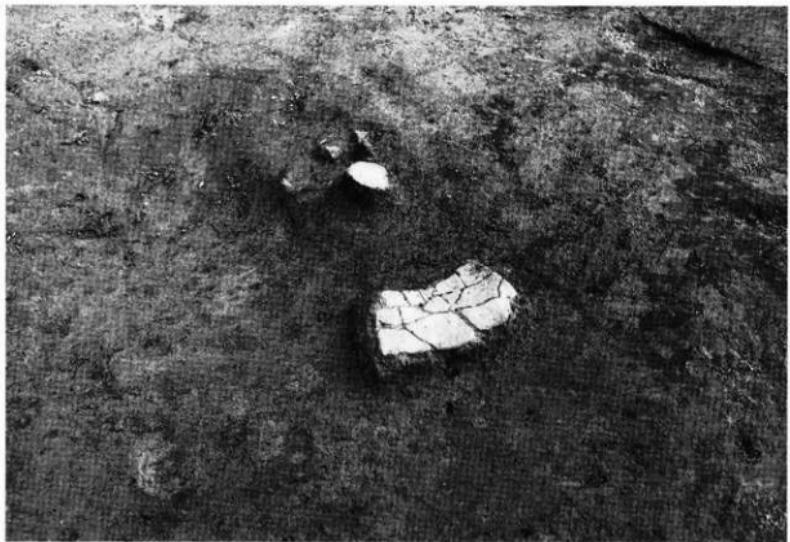


2. 調査地区全景（上方）

図版〇三　遺構　石塚遺跡NTTドコモショップ地区



1. 第2トレンチ全貌（東南東）



2. 第1トレンチ遺物出土状態（西）

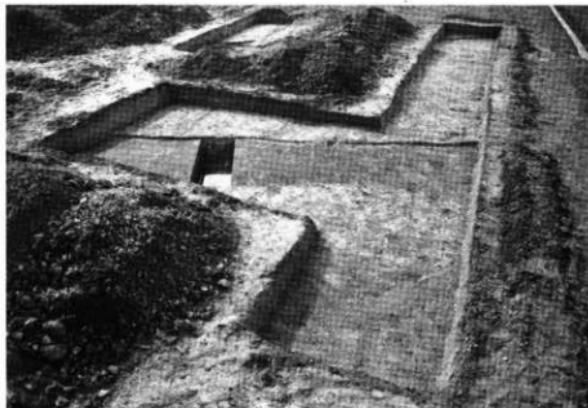
圖版〇四
遺構　出来田南遺跡石川地区



1. 調査地区全景（北東）



2. 調査地区全景（北）



1. 第1トレンチ
全景(東)



2. 第2トレンチ
全景(東南東)



3. 第3トレンチ
全景(北)



1. 調査地区全景（西）



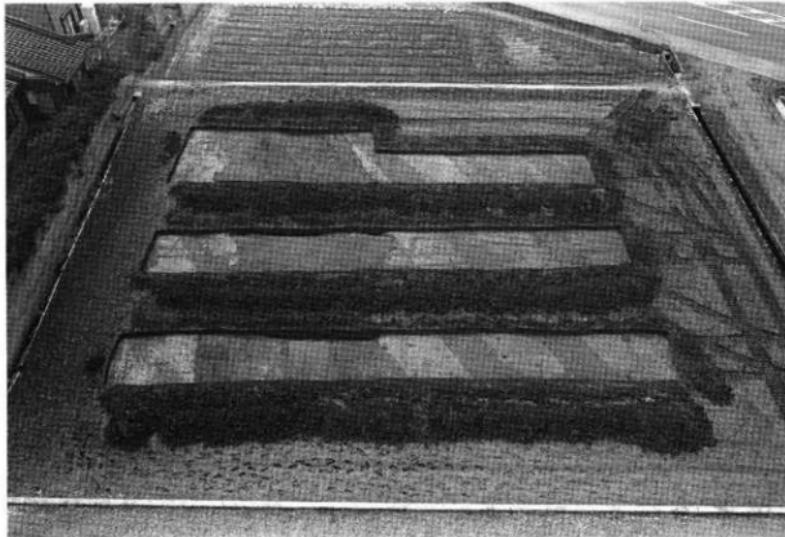
2. 調査地区全景（東）



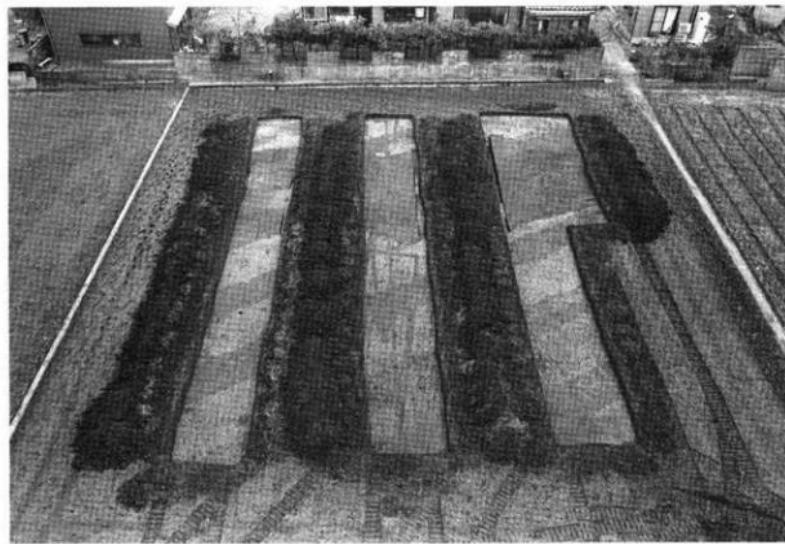
1. 第2トレンチ溝SD03・04検出状態（南）



2. 第1トレンチ遺物出土状態（西）



1. 調査地区全景（北）



2. 調査地区全景（西）

高岡市埋蔵文化財調査概報第64冊
市内遺跡調査概報XVI

発行者 高岡市教育委員会

富山県高岡市広小路7番50号

印刷所 平田印刷株式会社

富山県高岡市野村1485番地

2006年3月31日